



森と水の源流館 だより

March, 2010 vol.87

電話)52-0888 fax)52-0388(水曜休館)

残しておきたい川上村の山言葉 其三「めんつ」

意味：弁当箱。木製の曲げ物で、中は朱塗り。身と蓋に弁当をつめて、朝食には蓋の弁当を、昼食に身の弁当を食べる。

※川上村の方言の意味や使い方などについてのご意見をお待ちしております。



山仕事のベテランが作った吉野スギ雛(写真左上)は4月3日(土)まで、やまぶき保育園の園児たちが一生懸命作ったおひなさま(写真右下)は3月21日(日)まで、森と水の源流館正面玄関付近に展示中です。



【吉野スギ雛こだわりポイント】

▶切りそろえられた木口面が見事！ベテランの腕を垣間見ることができます。



▼イベント案内

源流人会限定企画「源流学の森指導者講習」

- 日 時：平成22年4月10日(土)～11日(日) 1泊2日
- 定 員：10名 大学生～
- 参加費：(3,000)円

水源地の森ツアー

- 日 時：平成22年4月25日(日) 9:30～16:30
- 定 員：20名 小学生～
- 参加費：大人4,000(3,200)円／小中高2,600(1,900)円

源流学の森づくり

- 日 時：平成22年5月8日(土) 9:00～17:00
- 定 員：20名 大学生～
- 参加費：大人1,500円／小中高1,000円

※お申込み・お問い合わせは、森と水の源流館まで

※()内の料金は源流人会会員割引価格

※小学生以下の参加は保護者の参加も必要



2/27 大阪で公開講座を開催

2月27日(土)大阪天満橋の「きんき環境館」にて、「高校生・大学生のみなさんと聞きたい 山や森のはなし」という題で公開講座を開催しました。

高校生が森の名手名人に話を聞くという「森の聞き書き甲子園」がご縁で、大学生になってからも何度となく川上村を訪れてくれる若者たちが中心となって、この企画を実施しました。

当日は、学生だけでなく先生や親御さんもいっしょに参加し、川上村出身の杉本充さん(77)のお話を聞きました。

スギの種を採る時の木登りの話、またもうひとつの名人技であるアユ釣りの経験にもとづく、山に学んだことや、自然とともに生きる知恵など、都会の若者たちには想像もつかないようなことですが、熱心なみなさんからは質問も絶えませんでした。



3/5 紀の川中流の農業を知るツアー

源流・川上村から流れ出た水を紀の川中流域の農家では、どのような思いで使っているのかを知るツアーを開催しました。紀の川市の「華岡青洲の里」や「紀ノ川農業協同組合」ほかを訪ねて村の奥様方と関係者総勢29名での交流となりました。

「きれいな水を流します」とは言いながら、実際はなかなか難しいと思う村の人たちですが、それでも紀の川上流からの水の恵みに感謝をいただきながら取り組む農家や農協、市の人々の話は、あらためて「水源地の村」の役割を考えていくきっかけとなったのではないのでしょうか。



3/6 吉野川紀の川流域協議会 源流体験

吉野川・紀の川流域の市民が集まった水源地の森を巡る体験会を開催しました。当日はあいにくの天候で、水源地の森はほんの少し足をふみ入れたくらいになってしまいましたが、原生林で残されているところと伐採跡地とが接するところでの河原のちがいなどから、水源地の森を守ることの大切さを実感していただ

けた様子でした。

また、流域でそれぞれ環境問題に取り組んでいる方が多く参加されたことから、お互いに情報交換など交流をもたれている方も多くいらっしゃり、今後の展開も楽しみです。

